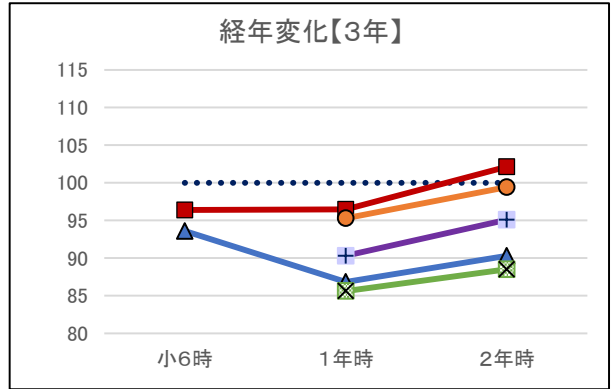
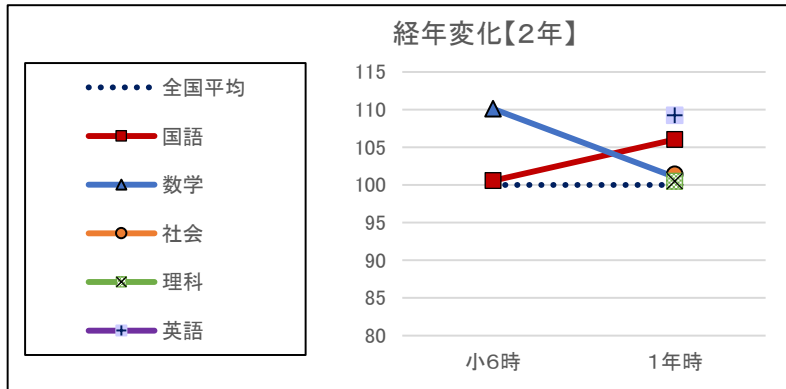


I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

※釧路市では、1～2年生を対象に国語と数学で標準学力検査を実施していますが、本校では、独自に社会、理科、英語においても実施しています。

① 標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）



② 学校の状況

本校の課題は、1学年・2学年ともに年度当初に設定した各学年の「目標家庭学習時間（1学年80分、2学年90分）」に到達していない生徒が多いことです。目標家庭学習時間に到達した生徒は、令和8年2月の調査で1年生が44%、2年生が35%でした。来年度は、全学年で50%以上とすることを目標とします。また、標準学力調査の結果から、1・2学年5教科で、評定2と4の生徒の割合が多く、二極化が顕著となっています。授業における「個に応じた指導」をさらに充実させ、効果的な方法に取り組むことが喫緊の課題です。

II 今年度の学力向上に係る重点取組

① 学校全体での取組

| 授業づくり | 学習集団づくり | 学習習慣・環境づくり |
|---|---|---|
| <p>【アウトプットと個別最適化の運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「個に応じた指導」の具体化（二極化対策）：単にアウトプットの機会を増やすだけでなく、習熟度に応じた「スモールステップの課題」と「発展的な問い」を同時に提示します。ICTを活用し、適切なタイミングで生徒による授業評価を実施し、それらのフィードバックを授業改善に活かし、評定2の生徒の底上げと評定4の生徒の伸長を両立させます。 家庭学習（前時の振り返り）を前提とした授業設計：授業の終末に「本時のまとめ」だけでなく、「家庭学習で取り組む具体的な課題」を明示します。「授業と家庭学習の往還」をより強固にするため、翌日の授業の冒頭で家庭学習の内容を発表・活用する場面を必ず設定します。 | <p>【自律的な「書陵スタンダード」の運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互補完的な学び合いの促進：「書陵スタンダード」にある10個の約束をベースにしつつ、分からないことを「分からない」と言える心理的安全性を高めます。学力の高い生徒が教えることで自身の理解を深め、苦手な生徒が質問しやすい「教え合い・学び合い」の文化を、全ての教室で日常化させます。 振り返りを通じた集団の成長：授業の終末で、生徒同士で「今日の授業で集団として何が達成できたか」を振り返る時間を設けます。教師主導の規律遵守から、生徒が自律的に学習環境を整える「当事者意識」の育成へシフトします。 | <p>【目標達成に向けた可視化と支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の「量」から「質・習慣」へのアプローチ：1年生は80分、2年生は90分、3年生は100分を目達成率50%以上を目指すため、学習時間の記録を可視化（スタディログの活用等）します。単に時間を計るだけでなく、4月に提示される「家庭学習のやり方」をさらに具体化します。5教科を中心として、授業の終末に本時のまとめと次の時間の学習につながる学習課題を提示します。 学習に対する前向きな動機付け：担任や教科担当が家庭学習の頑張りを認める声掛けを強化します。学校全体で「家庭学習は自分の進路（自己実現）のため」というマインドセットを醸成します。 |

② 各教科での指導の重点

| 国語科の重点 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 国語の総合的な力を養うために、引き続き描写に基づく根拠を明確にした個人思考を行い、それを他者へ伝え、最終的に個人思考を再構築する場面を多く設定していきます。 強固な記述力を土台に、手薄になっている「知識の正確性（部首や文法）」を養うために漢字練習ノートを導入し、反復練習を自主的にできるようなシステムを作ります。また、定着率を可視化するため、定期的に漢字テストを行います。 「書くこと」の能力を維持するため、chromebookを下書きに使い、自分の手で作文を完成させる機会を意図的に設定します。 生徒同士でお互いの作文を読み合い、良い点や改善点を指摘し合う「相互添削（ピア・レスポンス）」の機会を増やします。 古典では、歴史的仮名遣いを含む短文の「一斉音読」を繰り返し行います。「読めれば、意味がわかる」を実感させられるよう、音読を継続的に行います。 |

数学科の重点

- ・式の意味をしっかりと言語化できるように、発言する場面を多く設定し理解を深めます。
- ・「知識・技能」の定着を図るため、計算等の基本的な問題を反復させる時間を計画的に取り入れます。
- ・文章問題の変数の関係性を整理する手順を身につけられるために、問題を解く前に文章の整理をする時間を取ります。
- ・単元テストにおいて、学習への意欲を高めるような出題問題の工夫をします。

社会科の重点

- ・授業の冒頭に、前時の振り返りを行う時間を確保します。
- ・単元を貫く問いを設定し、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりすることで、自分の考えや理解を深めます。
- ・写真資料や表を用いることで、混同しやすい重要語句の整理と定着を図ります。
- ・資料の読み取りを通して問いに対する考察を行い、資料読み取りの技能と思考力を同時に高めていきます。
- ・単元の終わりに小テストを実施するなど、繰り返し学習する機会を設定し、基礎・基本の定着を図ります。

理科の重点

- ・授業開始5分程度の復習の時間を継続的に取り組み、基礎的な学習内容の定着をはかります。また、その際にICT機器を有効活用します。
- ・基本的な問題を解く力を身につけるために、授業内で問題に取り組む時間を確保します。
- ・学習内容と日常生活の関わりに気付かせたり、章や単元のまとめの時間を充実させるために教材研究を継続していきます。
- ・教師から問いを繰り返し、事象が何を示すか、そこから何が言えるのかを自分自身の言葉で説明させる活動に重点的に取り組みます。
- ・各種テストに最近の問題の傾向を捉えた問題を取り入れます。

英語科の重点

- ・単語テスト、単元テストの充実を図ります。事前に範囲を示し、頑張りが成果に表われ、やる気につながる取り組みにします。
- ・英会話タイムの定着を図り、ALTとの交流も増やし、授業内で簡単な会話練習を継続します。
- ・文法を理解、定着できるよう、文法を使ったスピーキング活動、ライティング活動を工夫します。各種テストで定着度をはかり、苦手な文法に特化した復習の時間を設けます。

音楽科の重点

- ・器楽や歌唱の演奏では、生徒たちがこれまでの学習で得た技術を、思考・判断しながら駆使し、楽曲をよどみなく表現できる力を身に付けます。
- ・鑑賞・創作の学習において、音楽を形づくっている要素や構造に着目して、活動のねらいを明確にし、感じ取ったことや考えたことを振り返りながら、学びを言葉で整理・表現できるようにします。

体育科の重点

- ・CBを活用し、自分の動きを動画に収めることで、課題解決を促す力を育みます。また、動画を見ながらペアやグループでの話し合い活動を深める一助とします。
- ・体育教科係や体育祭実行委員会を中心に「体力向上プロジェクト」を推進し、新体力テストやその結果を利用して体力（特に全身持久力と柔軟性）向上に努める授業を目指します。

美術科の重点

- ・作品制作の構想を立て、その計画の見通しを持ち、確認させながらの制作をさせたいと考えます。そのため毎時間「振り返りワークシート」に通し組ませ、自ずと進捗や工程を確認できるように取り組ませます。
- ・題材への興味関心を高められるよう、これから制作する作品の制作方法や表現技法などの提示について工夫します。
- ・各学年において様々な分野で、段階的に学ぶための題材選びを考え取り組みます。
- ・作品の完成度を高めるための集中力や専門的な技術を生徒の興味関心を引く内容で楽しく学ぶ内容を工夫します。
- ・有名な芸術作品の鑑賞だけでなく、互いの作品の表現のよさや個性などを認めあえるような場面を授業で用意し、創造活動の喜びを味わうことができる生徒の育成に努めます。

技術・家庭科の重点

- ・技術分野では、Society5.0を支える技術として、IoT (Internet of Things) や、ビッグデータ、AI (Artificial Intelligence) の理解や技術の習得に向けて、主にコンピュータを用いた授業を促進していきます。様々なアプリや常駐されているアプリを用いて実践的・体験的な授業を通して、学習を深めていきます。
- ・家庭分野では、食生活に重点を置き、健康な食習慣や栄養バランス、献立づくりまで考えられるように、実践的・体験的な学習を通して、家庭分野のねらいに迫っていきます。調理実習で実際に食材を加工したり、献立を考えたり班員と協力したりする活動を増やし、よりよい食生活を送れる生徒の育成に努めます。